

「医療」に望むこと

国立成育医療センター 泰地 秀信

「医療」は本年4月に編集会議の場所が日比谷から築地へと変わり、新しい編集委員会となりました。当方は高橋編集委員長のときより10年以上お世話になっておりますが、会議で教えて頂きましたことはなにもものにも代えがたいものと考えております。新編集委員長の湯浅先生がいろいろと新しい方針を打ち出されていますが、大きな変化としては政策医療を中心とすること、広い職種の参加を求めるといったことのように思われます。ここでぜひ「医療」で行って頂きたいと思うことがありますので、少し記させていただきます。

最近インターネットにより多くの情報が得られるようになり、当方もとりあえず調べたいときはホームページ上の総説を読むことが多いです（いろいろなサイトがある）。もちろん著作権の問題がありますので、ウェブサイトですべての情報を得ることはできませんが、多彩な情報源が利用できるようになったことにより学会誌の意義は変化しています。総説（レビュー）を掲載するのであれば、少なくともウェブサイトで得られる情報を超えるものが必要でしょう。ただしインターネットは玉石混交であり、有用な情報もあれば、とんでもない誤った情報もあります。なおマスコミに取り上げられる医療情報も同様で、業者の宣伝としか思えないものがあります。当方はある学会の広報委員を務めており、いくつか学会として反論している治療法などがありますが、対抗法に苦慮しております。「医療」も誤った医療情報に対抗することを考えてもらえればと思います。たとえば、先日“末期癌で、医師に根治療法はないと宣告されたが、他の病院に行ったらできるだけのことをしようといわれ、そこでの治療で改善をみた。セカンドオピニオンは積極的に求めるべきである”という内容のテレビ放送があり、医療不信を増長させるようなコメントもなされておりました。一般に“後医は名医”となることが多いようですが、例外的なことをすべてであるように報道するのは問題です。ドクターショッピングばかりして治療の時期を逸する例もあるものと思います。

さて話を戻しますが、学術誌の情報が他と最も違うところは、ピア・レビューがなされ、「医療」であれば国立医療学会が authorize していることでしょう。以前は「医療」の論文は国が認めたことになると考えて慎重

に査読を行っていました。「医療」は広い職域から論文を集めることになりましたが、ピア・レビューは引き続きしっかり行っていないと当誌の価値はなくなってしまうものと思います。当方が編集委員長を務めている学会誌でも、査読をめぐるけっこうもめることがあります（査読者の交代要求や、掲載論文に対する異議が出される）、学会誌の水準を保つことは学会を守ることであるので、納得して頂けるよう努力しています。論文の内容は読者が評価するもので、また責任は著者にあるともいえますが、掲載されれば学会が認めたことにもなります。査読を厳しくするほど投稿が減るというジレンマがあり難しい問題ですが、少なくとも“ピア・レビューのなされている雑誌”であり続けることは必要と考えます。

また「医療」では「政策医療」の記事を掲載することですが、ぜひ医療経済学的な問題もとりあげて頂ければと考えます。医師および病院は、より効率よく収入が得られるものにシフトしていく傾向があり、経済学的なことも含めなければ医療の今後は見通せないものと思います。保険診療に期待せず自費診療を中心とする医師も増えています。厚生労働省はホームページ内にさまざまな医療統計の情報を掲載していますが、たとえば無床診療所・個人の項で耳鼻咽喉科と眼科を比較しますと、耳鼻咽喉科の方が患者数は多いのですが、眼科は耳鼻咽喉科に対し医業収入で1.38倍、収支差額で1.51倍となっています（無床診療所・その他ではこの差はさらに開く）。また、ある週刊誌の科目別でどの科が最も収益をあげているかの調査では、一位は眼科で、眼科の入局者が多いのは当然ともいえます。いかに理想論を掲げても労力に見合った収益がなければ担い手がなくなるので、社会的要請のある小児救急医療などはこの点を十分考慮して頂く必要があるものと思います。“不採算部門”とされ切り捨てられている部門も、十分な診療報酬が与えられれば参入が見込めるのではないのでしょうか。また、電子カルテの普及が目標より大きく遅れていることが指摘されておりますが、これも経営上のメリットなしに推進するというのは無理があります。本年5号では「電子カルテの光と影」という特集がなされていますが、大阪医療センターの岡垣先生が“電子カルテでは負担増の方が大きくなる”ことを示されています（岡垣先生は解決策も示されています）。医療費の削減が話題になっている現在、政策医療として費用対効果比は重要なポイントですので、5号のような観点からの特集は引き続き行って頂ければと思います。